

第9回歯科再生医療推進ネットワーク協議会議事要旨

1. 日時:2024年2月6日(火)15:00~16:25
2. 開催方法:オンライン(Zoom)
3. 出席者(敬称略):

歯科基礎医学会(大島勇人)、日本歯科保存学会(坂上竜資)、日本補綴歯科学会(江草 宏)、日本歯科理工学会(岸田晶夫)、日本歯周病学会(沼部幸博)、日本歯科医療管理学会(尾崎哲則)、日本口腔インプラント学会(鮎川保則)、日本臨床口腔病理学会(前田初彦)、日本歯内療法学会(五十嵐 勝)、日本顎顔面補綴学会(尾澤昌悟)、日本再生歯科医学会(今井弘一)、東京形成歯科研究会(奥寺 元)、国公立大学歯科臨床研究推進会議(柿本直也)、日本再生医療学会(岡田 潔、飛田護邦、大島勇人、眞野恭輔、関根香里奈、小幡 毅)

欠席(日本歯科医史学会、日本歯科薬物療法学会、日本接着歯学会、日本レーザー歯学会、日本有病者歯科医療学会、日本顎顔面インプラント学会、日本口腔リハビリテーション学会、日本口腔科学会、日本口腔顔面痛学会、日本歯科医学会)

未回答(日本口腔外科学会、日本口腔感染症学会、日本歯科心身医学会、日本顎変形症学会、日本小児口腔外科学会、日本外傷歯学会、日本口腔腫瘍学会、バイオインテグレーション学会)

4. 報告事項

- 1) 各学会等出席者から自己紹介があった。
- 2) 岡田 潔理事(日本再生医療学会)より、資料 1 に基づき再生医療ナショナルコンソーシアム事業について説明があった。臨床研究計画等に対する技術支援(45 件、教育パッケージの提供、監査業務受託)、臨床研究等に必要の人材の教育と育成(細胞培養加工施設管理士の教育プログラム等の確立と支援、細胞加工における指導者研修会の開催、再生医療等安全確保法における細胞保管に関する考え方の策定と改訂、企業を対象とした教育システムおよび教育コンテンツの検討)、再生医療臨床支援マッチング(産学連携)支援(再生医療知財セミナー、テクノオークション)、患者・市民への再生医療等の情報発信(イベント、再生医療ポータルによる情報提供)、再生医療等の国際展開を見据えた支援(世界に向けた情報発信、戦略的な国際展開、iPS 細胞・エクソソームに関する国際標準化)、再生医療等の適正評価体性の構築(再生医療等適正性評価委員会)、将来展望について報告があった。
- 3) 飛田護邦理事長補佐(日本再生医療学会)より、資料 2 に基づき認定再生医療等委員会における審査の質向上事業について説明があった。2月10日(土)開催予定の第7回認定再生医療等委員会教育研修会について情報共有された。
- 4) 眞野恭輔事務局長(日本再生医療学会)より、資料 3 に基づきエクソソーム治療を取り巻く状況について説明があった。エクソソーム・幹細胞培養上清液を用いた治療が「再生医療」として行われている実態、投与方法として点滴が多いこと、原料としては脂肪、歯、臍帯が多いこと、効能・効果として美容・肌老化・育毛が多いこと、また、日本再生医療学会は 2023 年 11 月 10 日に「エクソソーム等に対する日本再生医療学会からの提言」を出していることが報告された。細胞外小胞(EVs)は細胞加工物と類似のリスクを有していること、「届出不要で開始可能な手軽な自由診療」として宣伝され広くクリニック等に導入されていること、EVs の治療およびその関連技術は急速に進歩していること(93 の臨床治験、2022 年に約 2 億米ドルと評価され 2035 年までに約 45 億米ドルと予測)、今後技術の進歩と共に分野も対象も広がること、日本再生医療学会は Regenerative Therapy にホワイトペーパー、PMDA からは報告書が出ていること、世界的にクリニックでの安易な投与が問題視されていること、日本再生医療学会は安心・安全な EVs の利用法のガイドラインの作成を進めていることの説明があった。「再生医療」の明確

な用語の定義が必要ではないかという質問があり、「再生医療等」という用語の場合は再生医療等安全確保法で再生医療と位置づけられているものを指すとの説明があった。

- 5) 小幡 毅日本再生医療学会補償保険制度室長(日本再生医療学会)より、資料4に基づき再生医療サポート保険について説明があった。再生医療サポート保険開発の背景、再生医療サポート保険の分類、再生医療サポート保険(自由診療)の概要(日本再生医療学会が窓口になっている)、プラン別の説明(診療所向け、医師個人向け)、シンボルマークについて説明があった。
- 6) 大島勇人理事長補佐(日本再生医療学会)より、第23回日本再生医療学会総会(2024年3月21～23日、於:新潟)にて、「シンポジウム36 歯科再生医療推進ネットワーク協議会主催: 歯科再生医療を推進する基礎研究の進展」(座長: 大島勇人、原田英光; 演者: 辻 孝/大島正充、美島健二、原田英光、福本 敏、Han-Sung Jung)を企画したことが報告された。その他にも、「シンポジウム23 歯科再生医療開発の現在地と課題への取り組み」(座長: 永田昌毅、多部田康一)、「シンポジウム28 間葉系組織の維持・再生を支える組織幹細胞の理解とその深化」(座長: 村上伸也、溝口利英)、「シンポジウム38 歯科再生医療の最前線ー臨床応用と真の実用化ー歯科再生医療発展のためのブレイクスルー」(座長: 山田陽一、畠 賢一郎)で歯科再生医療関係のシンポジウムが企画されたことが報告された。

5. 協議事項

- 1) 大島勇人理事長補佐(日本再生医療学会)より、資料5に基づき本協議会の今後の在り方に関するアンケートについて説明があり、意見交換した。本協議会は、「日本再生医療学会と歯科関連学会等との連携を通して、歯科再生医療等の推進に向けた集学的な協力関係を構築し、歯科再生医療の健全な発展に資すること」を目的として発足し、一般構成員として29学会、世話人として日本再生医療学会、顧問として日本歯科医学会および国公立大学歯科臨床研究推進会議が参加しており、2016年7月28日に第1回協議会が開催されて以来回を重ね、今回第9回の協議会を迎えた。しかしながら、①協議会参加学会の歯科再生医療への関わりには温度差があること、②協議会への欠席が常態化している学会が多数存在すること、③協議会では、再生医療ナショナルコンソーシアム事業などの日本再生医療学会からの情報提供が中心になっており、本協議会の目的が達成されているとは言い難い状況であることが問題点として挙げられ、参加学会から、今後の歯科再生医療推進ネットワーク協議会の在り方や運営について、意見を収集するためにアンケート調査(Web)を実施したいとの説明があり、アンケート案の提示があった。出席者からは、1)「再生医療」の範囲が明確になっていないので、アンケートの「再生医療」の範囲を明確にした方が良い、2) 歯科では新しい技術の研究開発が先進医療・保険収載の道筋に上手くつながっていないなど問題があるが、このような課題は歯科が一枚岩となって取り組む必要があり、その観点から、本協議会が歯科の各学会との有意義な情報提供の場になっている、3) 唾液腺再生、口臭、ナノメディカルなどカバーしていない学会を含めた方が良い、などの意見が出された。意見交換の結果、アンケートの実施については承認されたが、アンケートの項目についてはメーリングリスト上で修正することが了承された。